

授業改善等に関する報告書（2024年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2024 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Comprehensive English a	柳田 亮吾	この授業は英語の基礎力を固めつつ、英語の4技能を高めることを目標としていました。授業中は、4技能の中でも、語彙力を高め、英語の文章を素早く読むことに重きを置きました。加えて、基本的な英語の文法の復習もしたもので、人によってはやや基礎的過ぎると感じたかもしれません。基本的な英語文法の復習をどれくらいするか、どれくらいの量のリーディングに取り組むのか・リーディングの解説をどれほどするか、どれくらいの量のリスニング・ライティング課題を行うのか、といった授業内容のバランスについては、受講生の英語力を考慮しつつ、より良い分配を考えていきたいと思えます。
Integrated English a	志渡岡 理恵	1年生対象の授業で、TOEIC形式の問題集を教科書として用いたため、慣れるまで少し苦勞したようだが、多くの受講生が「TOEICの形式を理解し、慣れ、英語力を伸ばせた」とコメントを書いてくれていて安堵した。今後役に立ててほしい。
Intensive Reading a	塩田 航希	<p>授業アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。みなさんの協力によって、更に良い授業を構築するヒントを得ることができました。それでは、集計結果に基づいてフィードバックを行います。</p> <p>内容を絞るために、全体平均を下回る項目のみ抽出します。 「1. あなたのこの授業の欠席回数はいくつでしたか?」 全体平均0.69回に対して0.97回となっております。 これを大きな問題と捉えて、常に出席したいと思える授業を構築するための改善方を考えます。</p> <p>次に欠席数が最も多い方の意見に焦点を当て、欠席率の改善のヒントとなるような意見を抜粋します。</p> <p>A: 「途中から就職活動が忙しくなりプラスアルファの予習がほぼできず、それに伴って発言もできなくなってしまったけれど授業は新しい知識を知ることができて良かったです!」 B: 「先生の授業は頑張れるから全部先生だったらいいのに一でも予習大変だから一個でもいいや」</p> <p>Aは追加の予習ができないと発言数が増えないので、出席意欲が低下した可能性が十分にあるでしょう。 Bは大変という認識が同時に時折休みたいという感情に繋がっている可能性も否めません。 改善方策として、予習をした上で授業に参加するだけで自動的に発言数一回付与されるのはどうでしょうか? そうすると出席しようと思える可能性が現状よりも高まるのではないかと思います。</p> <p>こうした改善が出席率の向上に繋がると仮説を立て、今後検証したいと思えます。</p> <p>授業内で実施した工夫・取り組みに対する成果と思われる嬉しい意見を二人だけ抜粋して終わりにします。 「人生を変える可能性を与えたい」と初回講義で発言したのですが、一定の効果はあったのかなと思っています。</p> <p>「今まで単位取ればいいやと思い、最大まで休んでいました。でも、先生の話を受けてその意識がよいように変わりました。この大学に入ったことが人生の汚点だと思ってましたがそんなことないなと思えました。」</p> <p>「授業が始まった頃は授業アンケートで不満を書くつもりでしたが、最高の授業でした!!! (正直、塩田先生の思惑通りになっているようで悔しいです) 大学に入って初めて毎週自分と向き合うことができた授業でした。英語の知識も増え、人としても変わったような気がします。2回休まなければよかったなと思う程です。前期間ありがとうございました!」</p>
Intermediate Speaking a	ミラー, ブルース	Thank you to everyone who took the time to answer the class questionnaire. It was a pleasure to work with you all this past semester, and I hope everyone will continue to work together on supporting each other to help improve your speaking and listening skills in the next semester. In the meantime, enjoy the rest of the summer holidays and see you in September! (: (ミラー)
Vocabulary	猪熊 作巳	いただいたご意見は今後の授業改善に生かします。
アメリカ文学・文化演習 e	深瀬 有希子	アンケートに回答していただきまして、有難うございました。洗練された英語文献でしたが、これまで皆さんが学習されてきた文法的知識で理解できるということが共有できたなら嬉しく思います。ますます、みなさんの英語読解力とそれを支える専門的知識が深まることを願っています。

[2024 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing a	塩田 航希	<p>授業アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。みなさんの協力によって、更に良い授業を構築するヒントを得ることができました。それでは、集計結果に基づいてフィードバックを行います。内容を絞るために、全体平均を下回る項目のみ抽出します。 「1. あなたのこの授業の欠席回数はどのくらいでしたか？」全体平均0.69回に対して1.36回となっており、約二倍となっています。これを大きな問題と捉えて、常に出席したいと思える授業を構築するための改善方を考えます。</p> <p>こうした改善が出席率の向上に繋がると仮説を立て、今後検証したいと思います。</p> <p>授業内で実施した工夫・取り組みに対する成果と思われる嬉しい意見を一人だけ抜粋して終わりにします。 「最初は手を挙げることに苦手意識がありましたが、だんだん慣れて間違えることを気にせずに手を挙げられるようになりました。周りの人の頑張りがすごくすごく奮い立てられたので、塩田先生はもちろん、このクラス的环境にも感謝したいと思っています。大変だったけど、それ以上に得られたものがあつたと感じます。(英語の知識、自分から勉強すること、メンタルなど)とてもとても楽しかったです。本当にありがとうございました!」</p>
Paragraph Writing a	金田 迪子	<p>本年度も「Paragraph Writing a」の受講をありがとうございました。本年度は、学習者一人一人へのフィードバックを優先し、それに基づく無理のない授業ペースの配分を心掛けました。また本年度はペーパーレス化の推進を考慮し、ICTの積極的な利用を意識した授業づくりを心掛け、manabaコース内へのシラバスの掲示、授業計画のGoogleカレンダー化、FigJamを用いたホワイトボードの導入等、方法論の面で新たな試みを取り入れました。 本年度は「11 この授業の内容と方法について」において、「7.説明はわかりやすかったですか？」以外の項目において5.00の評価をいただき、これまでで一番高い評価をいただくことができました。項目7についても、当該区分平均・全体平均を上回る4.80の評価をいただきましたが、よりわかりやすい説明を目指し、自身の文法・表現の理解を深め、授業のパフォーマンスを高めていきたいと思えます。 また、「11」全体についてについても、当該区分平均・全体平均を上回る評価を多くの項目に対していただきました。「11. この授業を通じて、自身の成長が実感できましたか?」「13. この科目(系・分野をさらに学びたいと思いませんか?）」について、4.40という評価をいただきました。これらの学習内容の根幹に関わる項目について、もっと成長を実感して貰えたり、ライティングに興味を持って貰うためにはどうしたらよいか、今後も講師としての自分の課題として考えていきたいと思えます。 本年度が最後の担当となりましたが、充実した授業を一緒に作り上げていただき、誠にありがとうございました。アンケートへのご回答、誠にありがとうございました。</p>
アメリカ文学・文化講義 a	深瀬 有希子	<p>アンケートへの回答をありがとうございました。歴史的事実のみならず、それがいかに英語で表現されてきたのか、という点も理解されたようで嬉しく思います。これからもどんどん英語に触れて文化社会の深い理解を探求していきたいでしょう。</p>
アメリカ文学・文化講義演習 c	佐々木 真理	<p>演習の授業にもかかわらず、オンデマンド形式の授業となったため、授業の進め方はこちらも試行錯誤の半年となりましたが、皆さんそれぞれ発表も毎回の課題も熱心に取り組んでくださって良かったと思います。期末課題は、音声吹込みのスピーチ発表と、なかなか面倒な課題だったのではないかとありますが、どれも力作のスピーチで、採点するのが楽しい時間でした。半年間、お疲れ様でした!</p>
アメリカ文学史 a	稲垣 伸一	<p>多くの履修者の皆さんが授業に熱心に取り組んでくれていたと思います。授業アンケートへの回答率が低いのは少し残念でしたが、アメリカ文学史は後期にもbがありますので、引き続き関心を持って受けてくださることを期待しています。</p>
イギリス文学・文化演習 c	島 高行	<p>なかなか難しい作品だったと思います。 ほかの作品にも挑戦してみましょう。</p>
イギリス文学・文化演習 e	土屋 結城	<p>この授業ではスーザン・ソントグの著作『隠喩としての病』を読み、病気の表象についての理解を深めることを目的とした授業である。「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.59~4.68の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に関する理解は得られたと思う。今後の課題としては、事前事後学修の充実やさらなる英語力の強化が挙げられる。事前事後学修については、manabaをより効率的に使ったり、参考文献をより手厚く紹介するなどして改善を図りたい。英語力に関しては、授業中のアクティビティなどの改善によりさらなる強化を図りたい。</p>

[2024 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
イギリス文学・文化演習 g	志渡岡 理恵	32名のうち4名の回答だったので、授業内のアンケート実施を心がけたい。発表はグループ発表1回、個人発表1回の計2回だけだったが、「発表の回数が多かった」というコメントが寄せられていた。
イギリス文学・文化講義 a	志渡岡 理恵	オンデマンド授業。129名のうち28名の回答だった。イギリスについての理解や関心が深まったとのコメントが複数寄せられてよかった。
イギリス文学・文化講読演習 a	島 高行	ホームズに少しでも興味を持ってくれればうれしいです。ほかの作品にも挑戦してみましょう。
イギリス文学史 a	島 高行	なかなか難しい形式の授業でしたが、よく頑張ってくれました。
グローバル英語圏文化への招待 a	土屋 結城	イギリスの文化や社会についての理解を深めることを目的とした授業である。授業アンケートでは「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.72~4.93の評価を得た。オンデマンド形式での授業で、毎回動画を配信し、小テストで課す課題に取り組んでもらったが、授業形態、内容に関して、一定の理解は得られたように思う。今後の改善点としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。manabaの個別指導を用いたり、学生のコメントを丁寧に紹介したり、参考文献を手厚く紹介するなどして改善に取り組みたい。
ことばとジェンダー	柳田 亮吾	この授業では社会言語学の一分野である「ことばとジェンダー」について学びました。みなさんのふりかえり・コメントを拝見すると、概ね良い評価をして頂いたようでうれしく思っております。ただ、今回試みたオンライン上でグループワークと発表を行うというのは難しかったとのご意見が多かったので、来年度は別の協働の方法を考えたいと思います。
ジェンダー表象への招待	佐々木 真理	この授業を通じて、ジェンダーとその表象を取り巻くさまざまな問題について、関心を持ち理解を深めてくださったようで良かったです。時間割配置型オンデマンド授業という形式の授業でしたので、対面授業やレスポンスをどのように活用するのか、こちらも試行錯誤の半年となりました。
プレセミナー	島 高行	課題提出とプレゼン、ご苦労様でした。卒論に向けて頑張ってください。
プレセミナー	柳田 亮吾	この授業は4年次に取り組む卒業論文の書き方について学ぶことを目標としていました。みなさんのふりかえり・評価を拝見すると、概ね今回の進め方で問題なかったように思います。この授業で学んだことを活かし、4年次の卒論執筆に取り組んで頂ければと思います。
プレセミナー	深瀬 有希子	アンケートに回答いただきまして、ありがとうございます。皆様のご意見を、来年以降の授業に活かしていきたいとおもいます。2024年後期以降も、何かご質問などあれば、遠慮せずにご連絡ください。
プレセミナー	村上 まどか	プレセミナーにもかかわらず、回答者数のうち3分の一もこの科目の勉強時間が週30分以下では嘆かわしいことです。今回この授業では提出物を流用した(友達のデータ送信を受け、それを自分のものとして提出した)人も発覚しており、それでは自分のためになりませんので、提出物は人に見せない、人に見せてもらわないように徹底してください。目次や文献表といった形式を整える作業は、習うより慣れよであり、時間をかけて自分で取り組まなければ意味がありません。
プレセミナー	志渡岡 理恵	半数ほどの回答だったが、レポートやプレゼンテーションに自信を持てるようになった受講生が複数いたようでよかった。
英語学演習 a	柳田 亮吾	この授業では英語の文献を読み、社会言語学・語用論・談話分析の基礎について学びました。文献は入門書の一部を選びましたが、英語で書かれているので理解が少し難しかったところもあったかと思えます。みなさんのふりかえり・評価をみても、この点についてのご指摘があったので、来年度は受講生の理解度を高めるために、説明の仕方やお配りする補助教材について工夫をこらしたいと思えます。
英語学演習 c	野村 美由紀	毎回の授業に小テスト課題が課されますのに、途中で諦めることなく、よく頑張って継続して取り組んで頂けて、授業内容も概ね理解されたようで良かったです。毎回の小テストに加えて発表も課されて大変だったのではないかしらと思っておりますが、大体は満足されたようで安堵しております。説明が分かりにくいと感じられた面がありましたので、その点は気を付けたいと思っております。

[2024 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英語学概論 a	猪熊 作巳	いただいたご意見は今後の授業改善に生かします。
英語学講読演習 a	猪熊 作巳	いただいたご意見は今後の授業改善に生かします。
英語史	片見 彰夫	担当者として初めてのオンデマンド授業となりました。一番の課題は「板書やパワーポイント、配布資料」の分かりやすさという点がアンケート結果から示されています。教科書を持参しているため、それを活用いただければと思っていたのですが、補助教材もより充実させるべきであったと思っています。受講生にとって、より効率的な学びを促すよう担当者として更なる工夫を凝らしていきます。
時事英語演習	宮下 いづみ	アンケートへのご回答をありがとうございます。毎回シャドーイングや調べ学習に積極的に取り組んでくださったので、知識が増えているとよいと思います。今後もニュースをチェックしながら、世界に目を向けていってください。
女性と英語圏文学 a	佐々木 真理	この授業を通して、アメリカの女性作家について、興味や関心を持ったり、考えるきっかけとなってくださったようで良かったと思います。半年間、お疲れ様でした！
卒論セミナー a	志渡岡 理恵	授業中にアンケートを実施できなかったため、20名のゼミ生のうち2名のみの回答だった。授業内のアンケート実施を心がけたい。
卒論セミナー a	稲垣 伸一	前期は履修者の皆さんが熱心に卒論執筆の準備を進めてくださっていたと思います。後期から執筆が本格的に始まります。前期の調子でがんばってください。
卒論セミナー a	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございます。就職活動などで立て込む中、充実した発表をありがとうございます。卒論完成にむかって、無理のないスケジュールで、今後も進めていきたいと思っています。自信をもって4年間のまとめとなる、後期も臨まれていただければと思います。
卒論セミナー a	村上 まどか	3名からしか結果が得られず、しかも回答がばらけていたので答えにくいのですが、この授業に「どちらかといえば満足していない」という学生さんには、ではどのようにすれば満足してもらえるのだろうか、という自問には限界があるので、次のアンケートではぜひ、どのようにしてほしい／ほしかったという意見を記入していただければ、と思います。
卒論セミナー a	難波 雅紀	「卒論セミナーa」では、卒業論文の作成に向けて、①テーマの設定、②題材の選定、③背景情報の収集に主に取り組んできました。 ①については、「テーマとは何か」という根本的な問題に対する理解は一定程度得られたと思います。ただ、テーマと題材との関係性がいまいと明確にならず、なかなかテーマを設定できない場合があります。 ②に関しては、いくつか題材を抽出しても、内容的に見た場合にそれらが関連していないことが多いので、その中からテーマに即したものを選別していくのに時間がかかりました。でも、その過程が必要不可欠なことは理解できたようです。 ③背景情報は、テーマを論じていくために必要な情報を選別することで得られるので、①と②に深く関連するものです。実際の収集は夏休みの課題になってしまいましたが、結果は後期の「セミナーb」の個人指導で個々に確認していく予定です。
卒論セミナー a	佐々木 真理	卒論に向けて、皆さんそれぞれ自らの課題によく取り組まれた半年だったと思います。後期はいよいよ本格的に卒論の執筆に取り組むこととなりますが、頑張ってください。
卒論セミナー a	柳田 亮吾	前期の進め方で特に問題ないようですので、後期も同様のやり方で進めていきたいと思っています。後期はいよいよ卒論執筆が本格化するので、頑張りましょう！
卒論セミナー a	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.86~5.00の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の課題としては、アンケート回収率の向上と事前事後学修の充実が挙げられる。アンケート回収率の向上のために、授業時やmanabaでの告知を徹底していきたい。事前事後学修については、学生に課している課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。具体的には、卒論の向けのリサーチを早い段階から進められるように課題や授業の内容の内容を見直したい。

[2024 (前期) 英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー a	島 高行	前期はご苦勞様でした。 後期も頑張りましょう。
卒論セミナー a	猪熊 作巳	いただいたご意見は今後の授業改善に生かします。
特殊演習 a	与良 美紗子	授業へのフィードバックをどうもありがとうございました。 主な改善点は配布資料とパワーポイントの作り方にあると思います。「字が小さすぎた」「ノートを取るのが間に合わなかった」などの声がありましたので、今後は、作品一覧表などを先にmanabaで配布するなどの方針を取るつもりです。授業の進み方がやや速いと感じた学生さんがいらっしたのも、事前に資料配布することによってある程度改善できるかと思っています。哲学・思想的な部分など避けては通れない難解な部分に関しては、とくに補助プリントなどを配布するなどの工夫をしていきたいです。
特殊演習 c	野村 美由紀	授業中に質問タイムを設けましたり、manabaの掲示板に質問箱を設置したり、個人指導コレクションも利用しましたが、質問や意見を言いつらい側面があったようですので、緊張しないで自由に質問や意見を言える雰囲気を作れるように努めなければならないと思いました。 授業内容に難解な部分がありまして、分かりにくいと感じられたところがあったかと思っています。もう少し丁寧な説明するべきところがあったと反省しております。